

「大規模土砂災害対策研究機構」

平成27年度 第2回研究機構会議を開催しました

- 大学・行政・研究機関が連携して大規模土砂災害対策の研究に取り組む「大規模土砂災害対策研究機構」の平成27年度第2回研究機構会議を、和歌山県那智勝浦町で開催しました。
- 会議では、今年度の各機関における研究状況の報告や、平成28年度に開所予定の和歌山県土砂災害啓発センターにおける展示コンテンツおよび活用方針等に関する議論が行われました。
- また、翌日は啓発センター建設現場および和歌山県内の研究フィールドの視察を行いました。



会議の様子(那智勝浦町役場)

会議日時：平成28年2月8日(月) 15:00～17:00

開催場所：那智勝浦町役場

出席機関：北海道大学、三重大学、京都大学、和歌山大学、近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター、和歌山県、那智勝浦町、国土技術政策総合研究所、土木研究所

主な議題：(1)平成27年度研究・活動成果報告について
(2)和歌山県土砂災害啓発センターの活用について

(1)平成27年度研究・活動成果報告について

- 各機関より平成27年度の研究状況が報告され、大規模土砂災害のメカニズム解明や災害リスク評価に向け一定の成果が得られたことや、新技術を活用した対策手法の導入、住民啓発に関する取り組みなどについて情報交換が行われた。
- 今後、各機関相互連携のもと、さらなる研究の推進や学会誌等での研究発表を進めていくことが確認された。
- 研究機構における研究成果は年報に取りまとめ広く配布するとともに、機構HPも活用しながら積極的な情報発信を行っていく方針が確認された。



三重大学
山田教授



京都大学
小杉教授



北海道大学
笠井准教授



和歌山大学
此松教授

(2)和歌山県土砂災害啓発センターの活用について

- 和歌山県より土砂災害啓発センターの開所に向けた準備状況および展示内容に関する説明がなされ、各機関からは以下のような意見が出された。
(主な意見)
- 展示コンテンツから関連するウェブサイトへ誘導するなど、発展的な啓発となるよう工夫が必要。
- 本施設を学術的なワークショップや防災ツアーの拠点として活用することが望ましい。
- 学会誌や技術資料など、各種研究資料を一般向けに閲覧できるようにしてはどうか。
- 観光地という地域特性を活かし、観光と防災を融合したイベントの拠点として活用したい。
- 地元向けのイベントや地域の交流の場としても有効利用を考えたい。



啓発コンテンツ案の議論



和歌山県啓発センター視察

※ 大規模土砂災害対策研究機構・・・平成26年度より、北海道・京都・三重・和歌山の各大学と近畿地方整備局・和歌山県・那智勝浦町・国土技術政策総合研究所・土木研究所が連携して大規模土砂災害対策の調査研究・技術開発等に取り組んでいます。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
河川部 河川計画課
〒540-8586 大阪市中央区大手前1丁目5-44
TEL 06-6945-6355

